

秋田大学

H27年度 地(知)の拠点 統一アンケート集計結果
教員・職員・自治体編

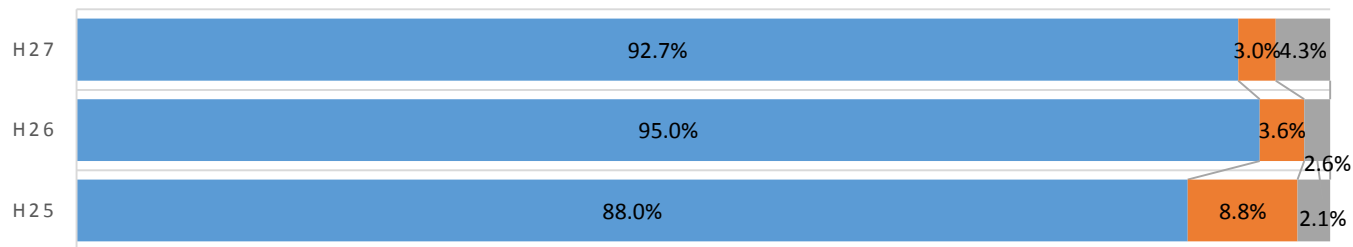
* 実施年月 平成 28 年 4 月

* 実施対象等

実施対象	対象数	回答数	回収率			
			H27 年度	H26 年度	H25 年度	比較
教 員	577 名	300 名	52.0%	69.5%	63.1%	↘
職 員	402 名	309 名	76.9%	90.1%	85.2%	↘
自治体	19 名 (4 自治体)	18 名	94.7%	100%	95.6%	↘

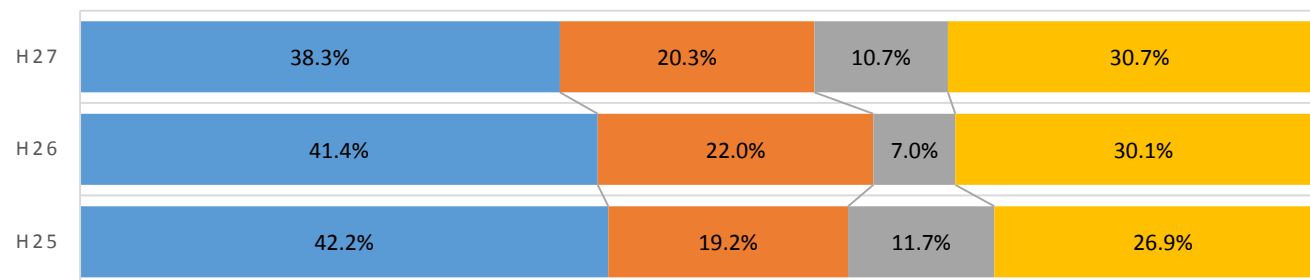
教員

1. 秋田大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



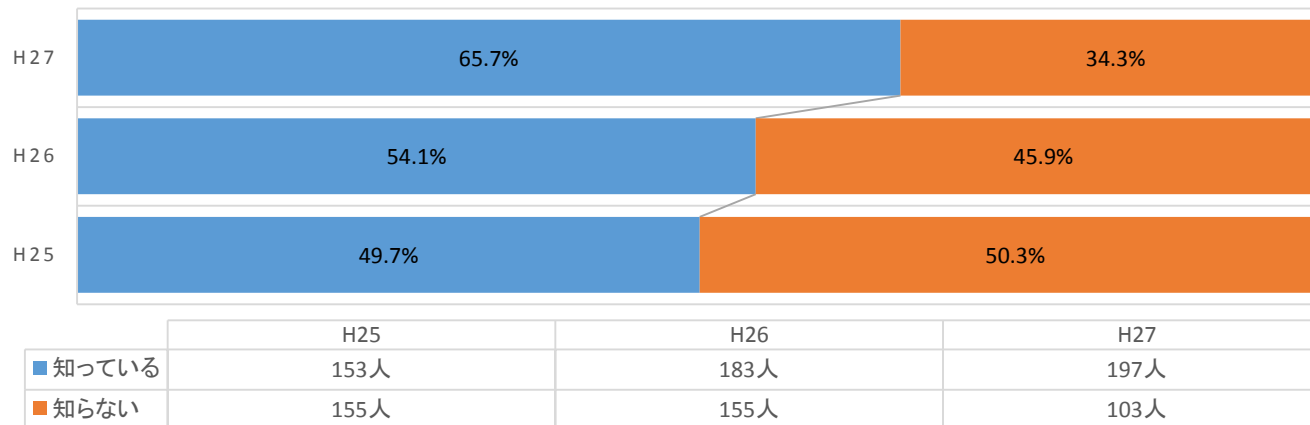
	H25	H26	H27
■ 知っている	273人	319人	278人
■ 知らない	27人	12人	9人
■ わからない	8人	7人	13人

2. 「地域のための大学」の教員として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

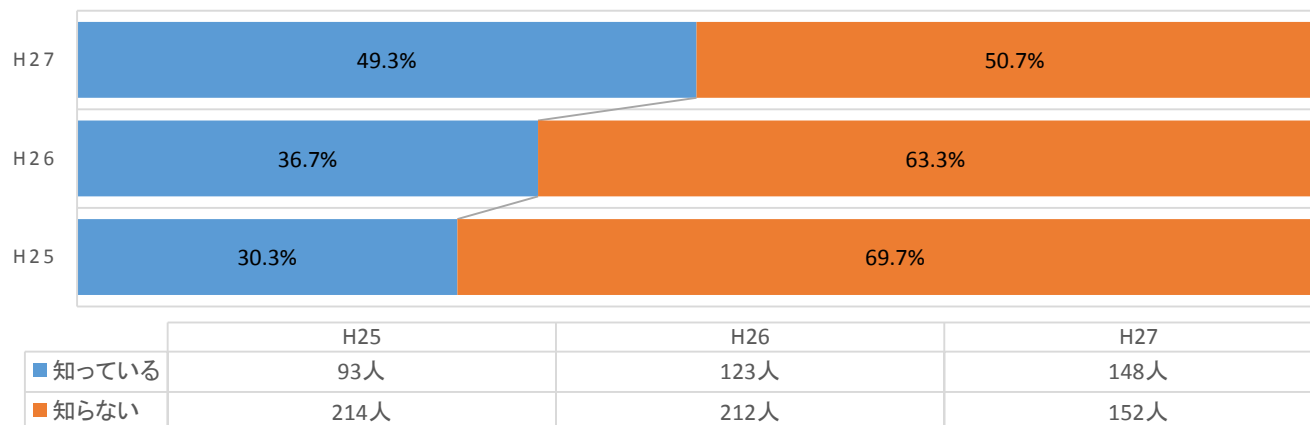


	H25	H26	H27
■ 教育・研究それぞれに参加している	130人	139人	115人
■ 教育のみ参加している	59人	74人	61人
■ 研究のみ参加している	36人	22人	32人
■ いいえ	83人	101人	92人

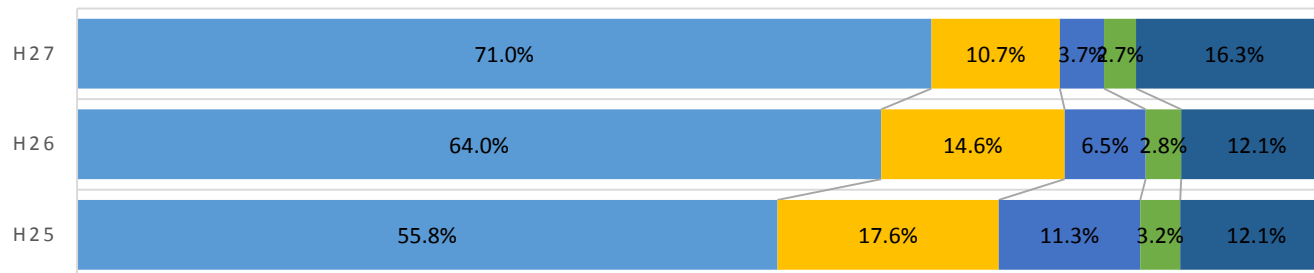
3. 平成25年度文部科学省の新規重点事業「地(知)の拠点整備事業」に秋田大学が選定されたことを知っていますか。



4. 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴い、秋田大学の中期目標・中期計画が変更されたことを知っていますか。



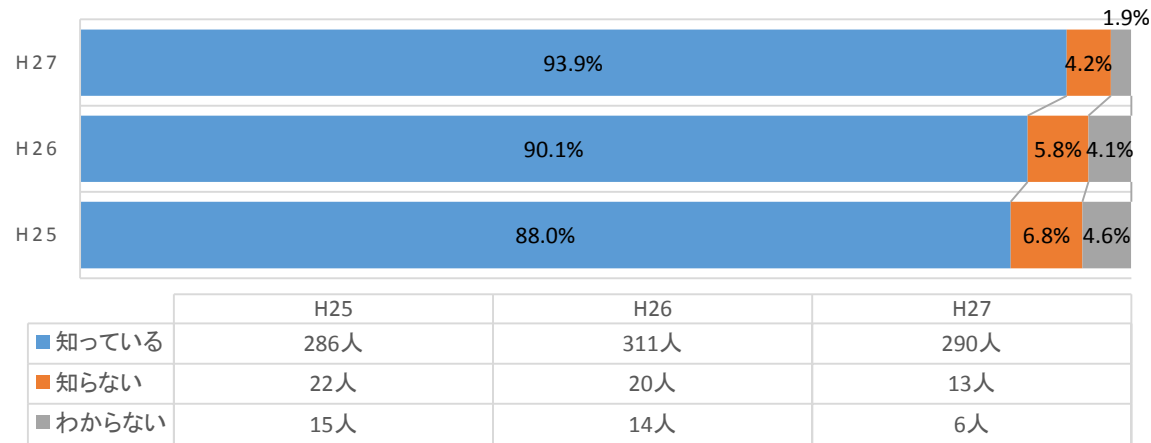
5. 秋田大学が、横手市、北秋田市及び男鹿市に分校を設置していることを知っていますか。



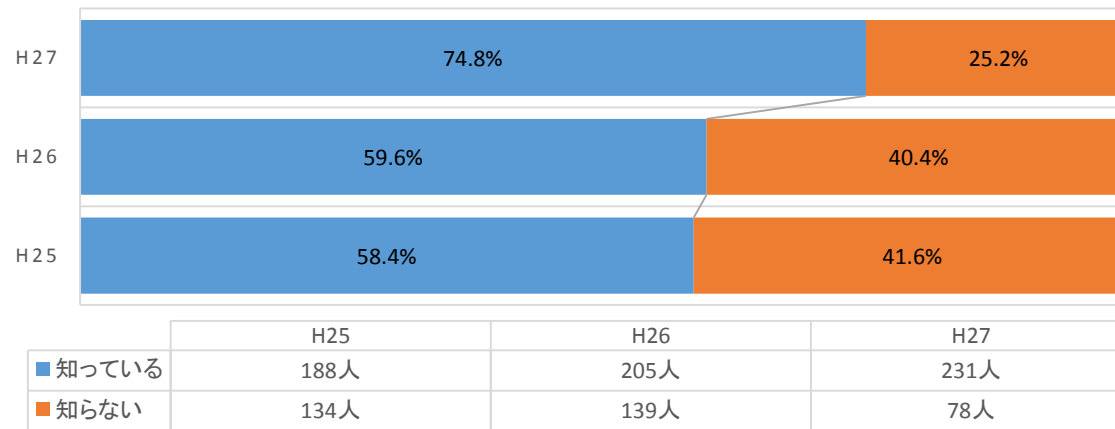
	H25	H26	H27
■ 3市すべてに設置していることを知っている	193人	228人	213人
■ 横手市	61人	52人	32人
■ 北秋田市	39人	23人	11人
■ 男鹿市	11人	10人	8人
■ 知らない	42人	43人	49人

職員

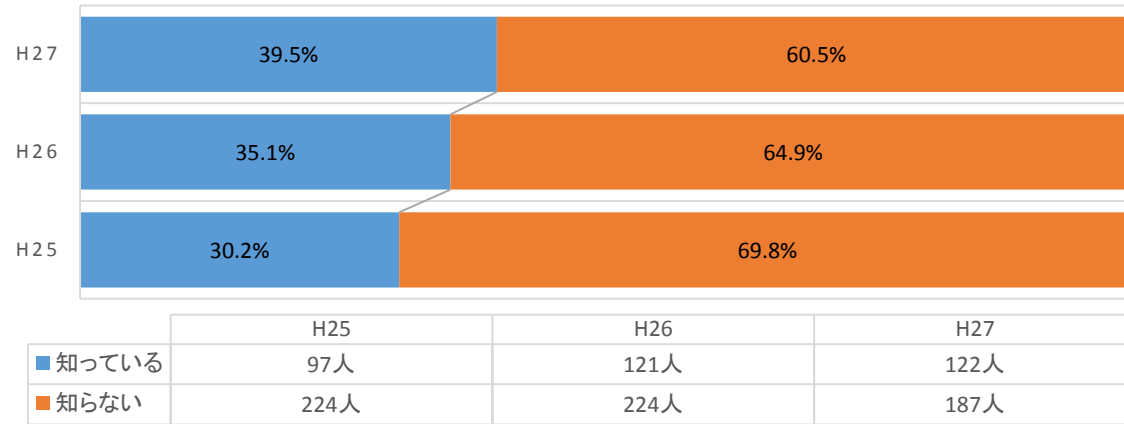
1. 秋田大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



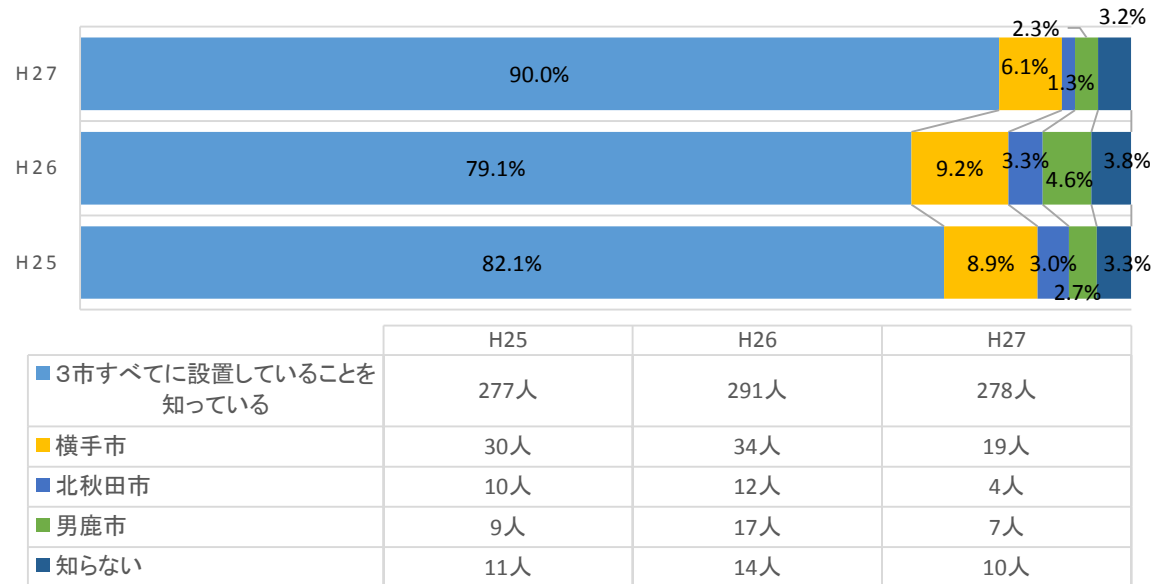
2. 平成25年度文部科学省の新規重点事業「地(知)の拠点整備事業」に秋田大学が選定されたことを知っていますか。



3. 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴い、秋田大学の中期目標・中期計画が変更されたことを知っていますか。

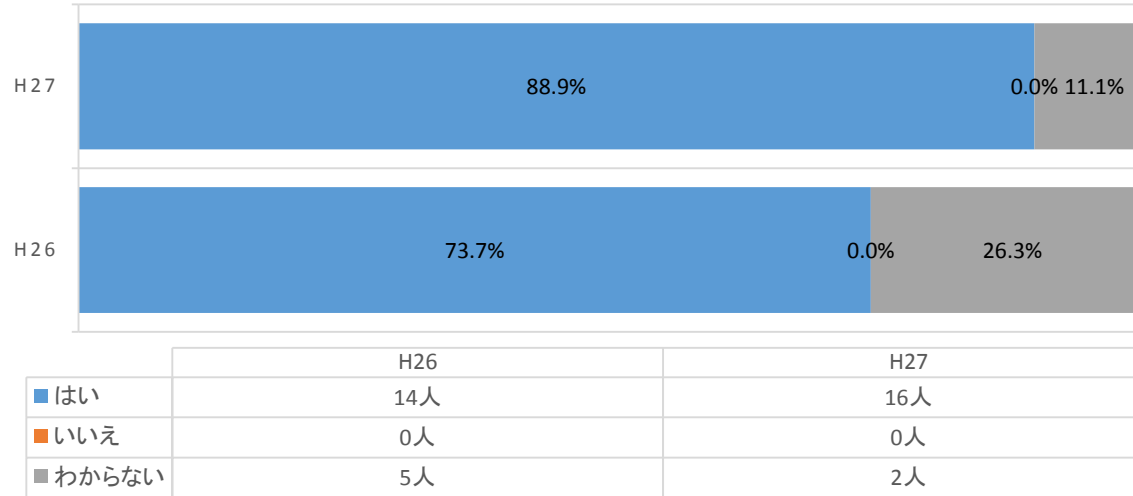


4. 秋田大学が、横手市、北秋田市及び男鹿市に分校を設置していることを知っていますか。



自治体

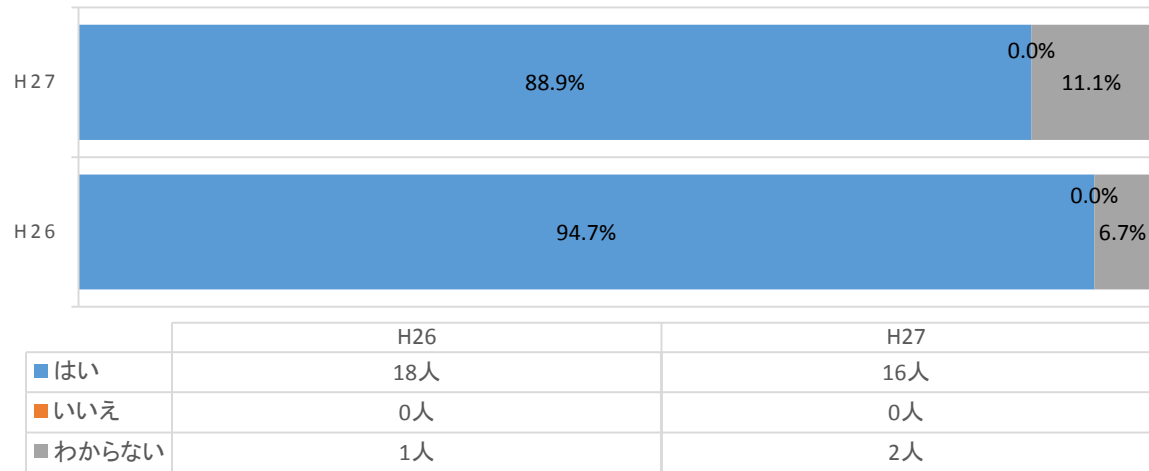
1. 秋田大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。



- 【はい】・積雪寒冷期の地震防災について、計画通り進捗している。
・地域の現状を踏まえ、地域住民を巻き込んだ事業展開ができていると思います。
・概ね平成27年度の事業実施計画どおり事業が実施されていると思います。
・それぞれの計画が着実に進められていると思います。
・事業計画どおり事業が進められていると思います。
・予定した事業は、ほぼ順調に実施されている。
・それぞれの計画については、着実に進められていると考える。今後の展開に期待する。
・取組実績の確認による。
・事業計画に定められた各種取組みが実施されているものとする。
・各地域のテーマ毎の課題について、取組みが進められている。
・阿仁鉱山を主体とした取組みに満足している。歴史の真実が見えた。
・フォーラムの開催や企画展など鉱山をテーマに事業実施されている。
・伝統芸能のモーションキャプチャ化、企画展示、フォーラム開催など取り組んでる。

【わからない】・27年度は事業計画の中間年度でしたが、在宅看護モデル構築のアプリケーション開発に対して進捗状況の情報が少ないと思います。

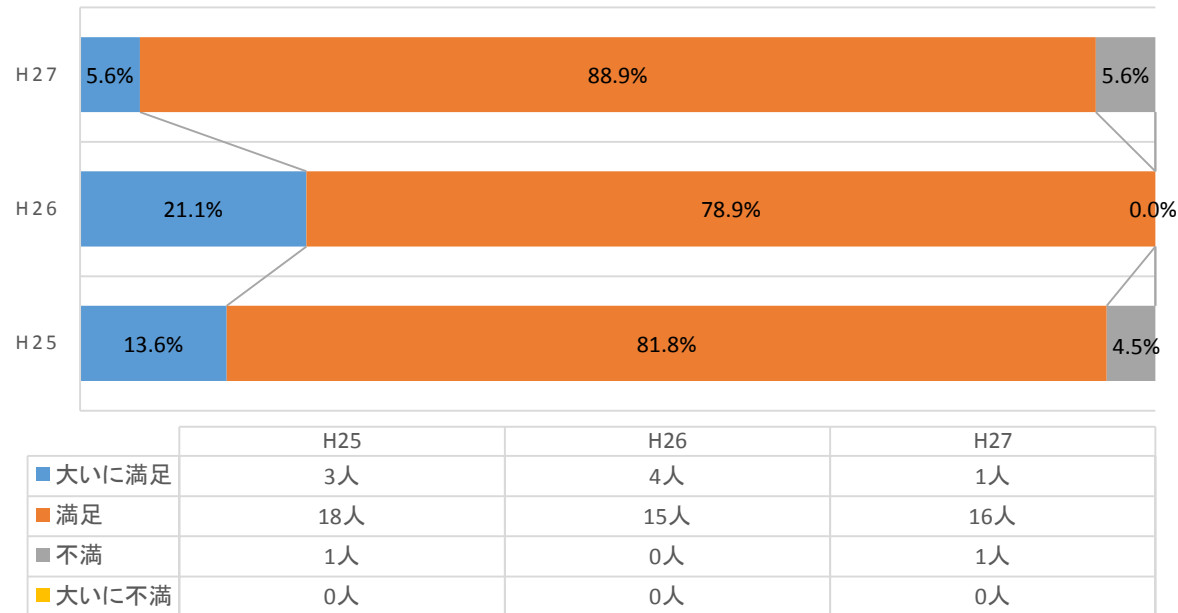
2. 秋田大学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。



- 【はい】
- ・冬季防災訓練等重要なポイントで視察、意見交換をしている。
 - ・市や地元住民と連絡を取り合って、うまく進められていると認識しております。
 - ・市と大学と協力連携がとられて、事業が実施されてると思います。
 - ・市や地元住民と連絡を取り合って、円滑な連携がなされていると思います。
 - ・市と地域関係者との信頼関係が築かれていると思います。
 - ・事業実施にあたっては、丁寧に説明を受けている。
 - ・関係者間の連携は図られているものの、一般県民等への情報発信にもう少し力を入れるべきではないか。
 - ・行政や関係団体のほか地域住民が参画するなど、多様な主体が関わりながら進められている。
 - ・市町村と連携し、地域の課題に取り組んでいる。
 - ・各地域で協議会等を開催し、地元自治体と連携し事業を進めている。
 - ・三者会議による事業計画の確認など、連携による推進は図られている。
 - ・開催事業について、事前協議も丁寧に行い、参加者も多く、円滑な連携が取れていると判断しています。
 - ・当市担当との打合せ、地域団体との協議等、円滑に進んでいると感じている。

- 【わからない】
- ・連携のもとに実施されているとは思いますが調整が難しいためか、大学との直接の話し合いの機会が十分でないように思います。

3. 当該大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。



【大いに満足】・阿仁地域に学生が入り込んだ授業や調査研究を行うなど、地域との交流や活性化にもつながっている。

【満足】・講座のかたちで大学の専門的知識を地域住民に普及啓発してくれた。

- ・プロセスには満足しているが、具体的な成果で判断したい。
- ・地域課題に適切に取り組んでいただいていると思います。受入側の問題もあると思いますが、広がりや奥行きが出てくるとすばらしいものになると思います。
- ・大学の専門知識、また学生の力を活用し事業を実施されている。
- ・学生が地域に行き研究されているので、今後も期待します。
- ・地域に積極的に入り取り組んでいるので、満足しています。
- ・専門的知識を持って様々な事業に目に見える形で協力いただいている。
- ・地域課題の解決に向け、現場重視の観点で県内各地に分校を設置するなど、精力的に活動しているため。
- ・実践的な活動が継続している。
- ・高齢化社会を見据え、地域が抱える課題に取り組んでいる。今後、取組の成果が全県的に広がっていくことを期待する。
- ・各地域の特性に注目し、大学ならではの支援をしている。
- ・地域の課題解決に取り組んでいるほか、地域医療の充実などに貢献している。
- ・阿仁地域に学生が入り込んだ授業や調査研究を行うなど、地域との交流や活性化にもつながっている。
- ・世代を超えた地域との繋がりが生まれています。地域特性を再発見・再認識する機会を得ましたので、今後の展開に期待がもたれます。
- ・北秋田分校長の積極的な地域参画、学生の支援も頼もしい。

【不満】・地域住民との交流を考えた企画が欲しい。また、学生等が将来移住・定住できる仕組みづくりを行なって欲しい。